

運用開始後、初めての南海トラフ地震臨時情報

2024年8月8日16時42分、日向灘の地震（深さ37km、M7.1）により、宮崎県日南市で震度6弱を観測したほか、東海地方から奄美群島にかけて震度5強～1を観測しました。この地震は、南海トラフ地震の想定震源域内で発生しました（図1）。

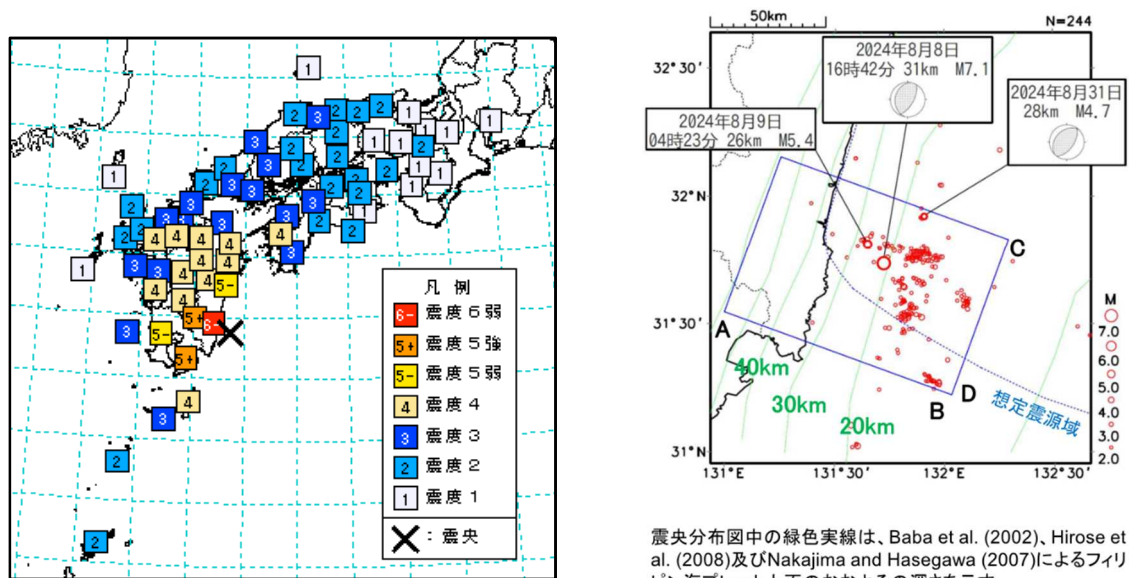


図1 8日16時42分の日向灘の地震における地域震度分布図（左）、震央分布図（右）
（9月6日報道発表資料「南海トラフ地震関連解説情報（第10号）」について）より抜粋

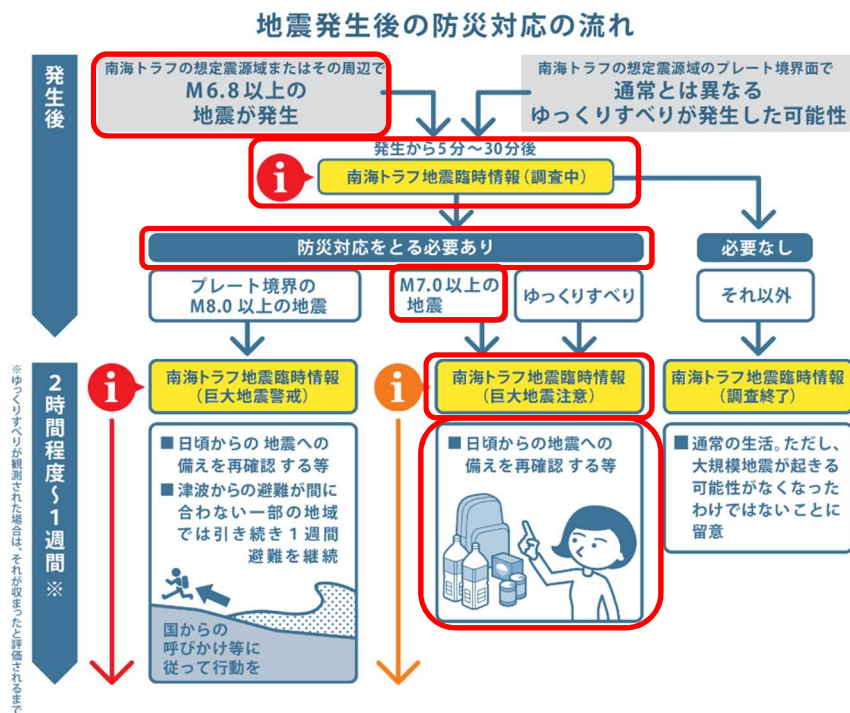


図2 今回の地震における地震発生後の防災対応の流れ
（赤枠は今回の対応の流れ、気象庁刊行物「南海トラフ地震 -その時の備え-」に加筆）

この地震の発生により、気象庁は8日17時に南海トラフ地震臨時情報（調査中）を発表しました。同日17時30分から臨時の南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会および地震防災対策強化地域判定会が開催され、今回の地震は、南海トラフ地震の想定震源域内の南西端で発生した地震であり、南海トラフ地震の想定震源域では、新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると評価されました。これを受けて、気象庁は同日19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました（図2）。

図3は、モーメントマグニチュード※（以下、「Mw」という。）7.0以上の地震発生後に Mw8 クラス以上（Mw7.8 以上）の地震が発生した世界の事例をまとめたものです。Mw7.0 以上の地震発生後、7日以内に Mw8 クラス以上の大規模地震が発生するのは、数百回に1回程度です。このことは、南海トラフ沿いで大規模地震が発生する可能性が、平常時と比べて数倍高くなっていることを意味します。続けて地震が発生する可能性は、先に発生した地震が起こった直後ほど高く、時間を経つにつれて低くなっていきますが、ゼロになるわけではありません。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるもので、地震発生直後に地震波の最大振幅から計算し津波警報等や地震情報の発表に用いるマグニチュードとは異なります。

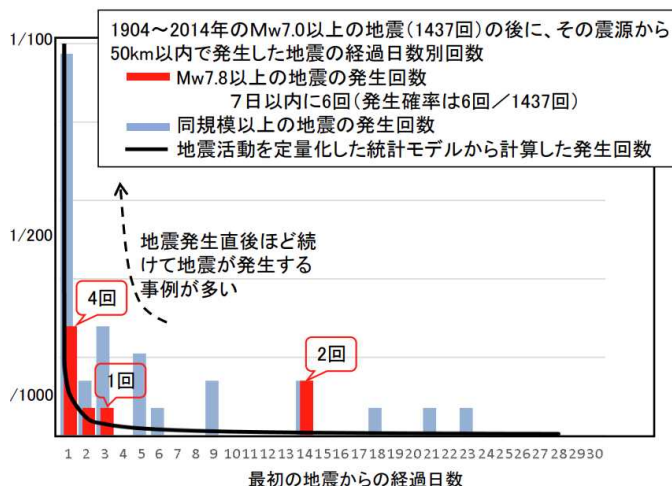


図3 地震が続けて発生した事例
（8月8日報道発表資料「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）について」より抜粋）

南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）の発表後、政府や自治体の呼びかけに従って、大規模地震の発生に備えて図4に示すような防災対応を1週間とるように周知しました。15日の17時に防災対応期間は終了しましたが、南海トラフ地震の切迫性は平常時においても高い状態にあり、いつ地震が発生してもおかしくないことに留意が必要です。また、異常な現象が観測されず、南海トラフ地震臨時情報が発表されないまま、突発的に大規模地震が発生することがあります。このため、引き続き、日頃からの地震への備えを心がけて下さい。



図4 後発地震に備えた具体的な防災対応（内閣府 HP）

南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件

https://www.data.jma.go.jp/egev/data/nteq/info_criterion.html

内閣府 HP「南海トラフ地震臨時情報が発表されたら！」

<https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/rinji/index.html>